

小学校 外国語活動・外国語（英語）

重点1 目標と指導と評価の一体化を図る 目標1

- 「英語を使って何ができるようになるか」を明確にし、児童が学習の見通しを立て、振り返りができる単元計画を立てている。
 - 児童が自らの学びの変容を自覚し、自立的に学習を調整（自己調整）できるよう、評価することを指導している。
 - 単元ゴールにおける評価指標を児童と共有し、自己評価や相互評価を次の学習改善につなげている。
- 【ポイント】
単元ゴールにおける児童の姿を具体的に描き、「目標と指導と評価の計画」に基づきながら、児童が「自らの成長とその理由」が説明できる指導を工夫します。

重点2 目的意識や相手意識のある言語活動の充実

目標2

- 自分の考えや気持ちを含め、単語や一文で終わらせず、2～3文で話す活動を段階的に積み重ねている。
 - Small Talk を計画的に行い、既習表現を繰り返し活用させるとともに、「追い質問」などの対話の続け方を指導している。
 - デジタル教科書や AI を活用し、個別に発音練習や表現のブラッシュアップを行う場面（個別最適な学び）を設定している。
- 【ポイント】
児童が「誰に」「何のために」伝えたいかを明確にした場面を設定し、必然性のあるコミュニケーションを目指します。録画した自身のパフォーマンスを客観的に振り返ることも、表現の質や相手意識を高めるために有効です。

重点3 小・中の学びを円滑に接続させる

目標3

- 音声十分に慣れ親しませることを重視し、原稿を見ずに「話す」指導をベースにしている。
 - 「読む・書く」の指導を急ぎすぎず、アルファベットの認識から段階的に、丁寧に時間をかけて指導している。
 - 中学校のパフォーマンステストや学習内容の情報を共有し、連携を図っている。
- 【ポイント】
小学校では「音声の基盤」をしっかり作ることが最優先です。音声で馴染んだ表現のみを「読む・書く」対象とすることで、児童の学習負担を軽減し、中学校での「キーワードをもとにした発信」へとつなげることが大切です。

中学校 外国語（英語）

重点1 目標と指導と評価の一体化と発信力の強化

目標1

- 「目標と指導と評価」の計画に基づき、生徒が自身の課題を把握・調整できる指導を行っている。
 - パフォーマンステストでは、既習事項を活かせる「初出の英文」等を用い、受信力や即興的な発信力を見取っている。
 - MEXCBT を授業や家庭学習、テストに活用し、特に課題となっている「話す・書く」力の強化を図っている。
- 【ポイント】
評価の具体指標を教師間で共通理解し、生徒が自らつまずきを克服できるようフィードバックを行います。生徒自身が自分の学びをコントロールできる「自律的な学習者」を目指します。

重点2 領域統合的な言語活動の充実

目標2

- 日常的な話題から社会的な話題まで広げ、自分の考えや理由を論理的に構成して、伝える活動を行っている。
 - 聞いたり読んだりした内容について、自分の意見や感想を即興で伝え合ったり、まとまりのある文章で書いたりする領域統合的な活動を行っている。
 - ICT や AI を活用し、領域統合的な言語活動の量を確保するとともに、見直しや振り返りを充実させている。
- 【ポイント】
生徒が興味・関心をもつテーマを設定し、既存の知識を活用しながら論理を組み立てる活動を重視します。小学校で習得した定型表現を活用します。

重点3 小学校からの学びを土台とした段階的な指導

目標3

- 小学校の既習事項（語彙・表現）を、新たな文脈で繰り返し活用させることで、定着と流暢性の向上を図っている。
 - 中1 初期段階では、小学校での音声中心の活動を継続しつつ、綴りと関連付けた丁寧な文字・文法指導へと段階的に移行している。
- 【ポイント】
小学校で培われた「聞く・話す」力を活かしつつ、中学校で課題になりやすい「綴りと音の結びつき」や「文構造の意識」を、実際のやり取りの中で意識させる指導が大切です。さらに小学校の学びが「役に立った」と生徒が実感できる接続を目指すことが大切です。

高等学校 外国語（英語）

重点1 目標と指導と評価の一体化とデジタル学習基盤の活用 目標1 目標4

- 「CAN-DO リスト」に基づき、生徒がゴールイメージを明確にもち、自らの変容を自覚できるよう、「目標と指導と評価」を一体的に行っている。
 - パフォーマンス評価の結果を生徒と共有し、生徒が自身の課題や取組を再設定して、学び方を調整できるよう支援している。
 - ICT（ツール）を活用し、特に課題となっている「話すこと」「書くこと」の個別最適な練習の場面を設けている。
- 【ポイント】
生徒が「何を学んだか」だけでなく、「どのように学べば目標を達成できるか」という学習戦略を身に付けられるように段階的に指導します。効果的に AI や ICT ツールを活用する場面も単元内に位置付けましょう。

重点2 論理的な発信力を高める言語活動の充実

目標2

- 授業は「英語で行うことを基本」とし、生徒が英語で思考し、表現を工夫して発信する機会を最大化している。
 - 社会的な話題について、読んだり聞いたりした内容を整理し、自分の考えを再構築して伝える領域統合的な活動を行っている。
 - 特に「論理・表現」において、批判的思考や論理性のある発信を重点的に育成している。
- 【ポイント】
生徒が「深く考えたい」「意見を交換したい」と感じる社会的な話題を扱い、必然性のあるコミュニケーションが生まれる場を設定します。定型文の暗記に留まらず、目的に応じて生徒が自分の言葉で論理を組み立てるプロセスの指導が重要です。

重点3 中高の円滑な接続と自律的な学習者の育成

目標3

- 中学校までの既習事項を、社会的な話題などの新たな文脈で繰り返し活用させ、表現の定着と流暢性の向上を図っている。
 - 地域の小・中学校との情報交換や授業交流を通じ、校種を越えて指導内容・方法の共通理解に努めている。
- 【ポイント】
中学校で学んだ知識の活用・探究という学びの過程で、より深く思考し問題解決に向かう場面を意図的に作ります。また、生徒が自分の課題に合わせて自律的に ICT ツール等を選択し、学びを調整できる環境を整え、生涯学び続ける態度を育成することが大切です。

「英語教育実施状況調査」調査項目は国が英語教育で重視している内容や今後改善していくべき点を示しています。自校の重点設定の参考としてください。



(小学校)外国語科において、「読むこと」「書くこと」の指導はどの程度まで行うのでしょうか。
(中学校)小学校で外国語教育が早期化・教科化されたことを踏まえ、中学校の指導においてどのような点に留意すればよいですか。
上記2点を含む適切な指導を行うために押さえるべき14のポイントは、以下を参照してください。
平成29年改訂の小・中学校学習指導要領に関するQ&A(外国語、外国語活動に関すること)：文部科学省



小・中・高を通じて身に付けさせたい 資質・能力（目指す子どもの姿）

目標3

- ◎ 外国語による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる知識及び技能を身に付けている。
- ◎ 外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解するとともに、理解した情報や考えなどをもとに適切な語彙や表現を用いて論理性に留意しながら表現したり伝え合ったりすることができる。
- ◎ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。

「言語活動」とは

文部科学省
説明スライド 「言語活動を通して」の具体（動画）

小中連携の必要性とポイント

文部科学省

文部科学省 CBT システム (MEXCBT)

目標4

英語4技能をバランスよく育成する観点から特に課題となっている「話すこと」「書くこと」の力の強化に向けて、MEXCBTにCEFRレベルと紐づけたCBT問題が100問が搭載されています。各学校において、これらの問題を、授業・家庭学習・パフォーマンステスト等の実施に積極的に活用してください。

学習者用デジタル教科書について

目標4

全ての小・中学校に英語のデジタル教科書が頒付されています。児童生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図る外国語科における指導にとって大切な役目を果たします。活用する際には、「言語活動を中心とした単元の中でどのように使うか」「児童生徒の変容につながっているか」など、資質・能力の育成につながるよう指導することが大切です。
学習者用デジタル教科書について：文部科学省 (mext.go.jp)

○しまねの教育情報Web (EIOS) に学習指導案や文部科学省 YouTube 公式チャンネルへのリンク等を掲載していますので参考にしてください。
外国語 | しまねの教育情報 Web EIOS | 島根県教育庁

研修等について

- 小学校外国語教育講座
6月10日(水) 島根県教育センター 浜田教育センター
- 中・高等学校外国語教育講座
10月23日(金) 島根県教育センター
- 外国語指導助手 (ALT) の指導力等向上研修
2月5日(金) 出雲合同庁舎

目標5との関連は、URL または二次元コードからご確認ください。

URL <https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/shien/tokubetsushien/-1218.html>

